

# 令和4年度別府市人権教育学級第8回学習会

日時：令和5年 2月16日(木) 10:00~11:30

場所：別府市役所 5F 大会議室

テーマ：障がい者と人権

ほんの少しの理解をもって共に生きる

講師：特定非営利活動法人「ぼっぼ」

代表 梶 容子 さん

## 講演概要

### プロフィール

- ・特定非営利活動法人「ぼっぼ」 代表
- ・子どもや障がいを抱える人たちに寄り添い、健全育成はもとより自立した生活を営むことができるよう支援を行うとともに地域の福祉向上に努める。



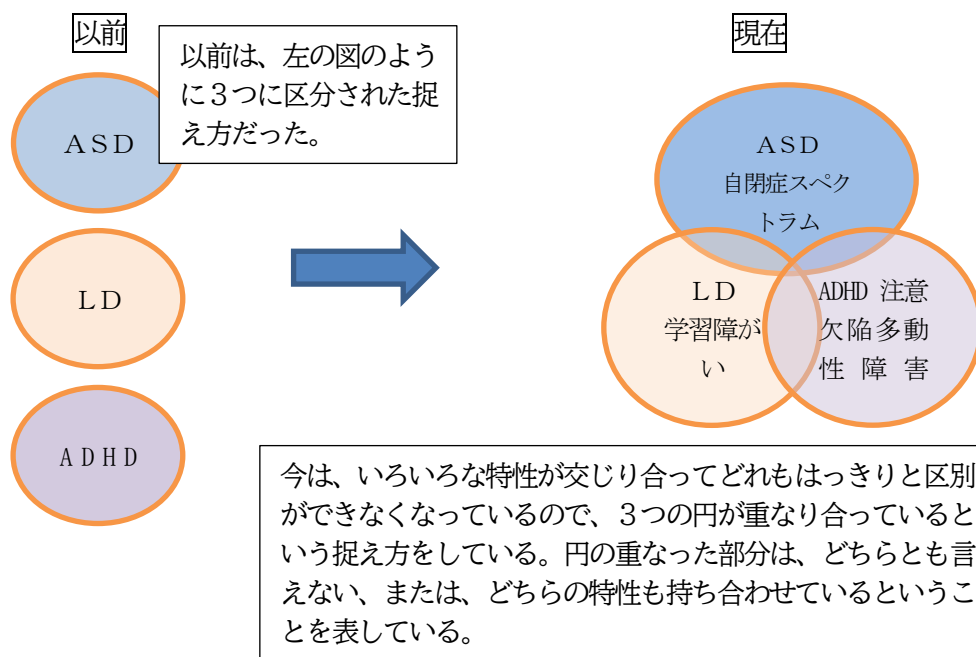
〈講師の梶 容子さん〉

### 1 本日本日お伝えしたいこと

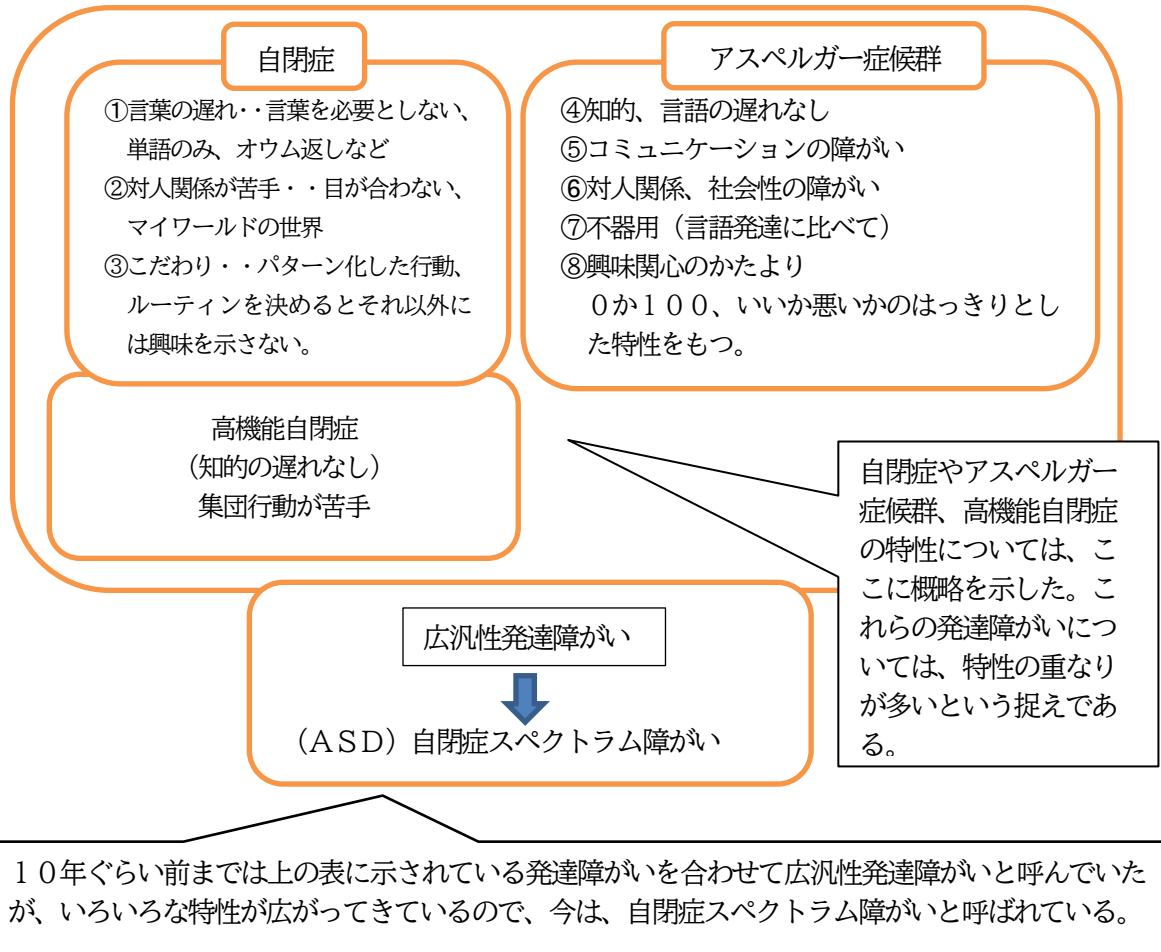
- ◇発達障がいの特性について
- ◇親が向き合う不安や悩み
- ◇福祉サービス
- ◇最後に

### 2 発達障がいについて

#### (1) 発達障がいのとらえ方の変化



(2) 自閉症スペクトラム (ASD) 障がいとは



(3) 注意欠陥多動性障害 (ADHD) とは

注意力・多動性・衝動性を自分でコントロールするのが苦手、知的に問題のない子どもが多い。  
<大きな三つの特徴>

- |         |  |
|---------|--|
| 注意力=不注意 | ⇒ ・忘れ物が多い、気づかない ・相手の話を集中して聞けない<br>・気が散る                        |
| 多動性     | ⇒ ・椅子に座ってられない ・椅子をガタガタさせる ・片時もじっとしてられない                        |
| 衝動性     | ⇒ ・話をする衝動が抑えられない ・急に飛び出す ・待つことが苦手<br>・注意を嫌い、時に破壊行為を引き起こす場合がある。 |

その一方、好きなこと、興味のあることは行動力と豊かな発想力をもつ

(4) 学習障がい (LD) とは

<特徴>

- 聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する等の特定の能力の習得と使用に困難がある。
- ・知的な遅れはないのに習ったことを覚えられない
  - ・文字を正確にすらすら読めない

- ・文字を正しく書けない
- ・指を使わないと計算できない

親は、学習について不安や心配があるだろうけれど、子どものできないことを見るよりもできることを見てあげることが大切。その方が子どもも親も気持ち楽になれる。

○くりかえし行動やちょっと変わった行動をする時

人を困らせようとしているとかふざけているわけではなく、自分のためにしている、マイワールドの中での行動。納得するまで行うことも。無理に止めない。



「それはおかしいことだよ」というような声かけはしない。

**危険や他者に迷惑が及ばないのであれば見守り**

○パニックを起こしかけている、または、起こしている時



**クールダウンのスペースを用意したり別室へ促したりして、落ち着くのを待つ。**

(子どもの場合、シーツなどをかけてあげることもある)

毛布、シーツ、段ボールなどでその子が一番落ち着く場所を作ってあげておく。

○時間の流れやすべきことが分からず混乱する時



**スケジュール表や絵カードを用いて可視化する。**

- ・スケジュール表の紹介
- ・絵カードと文字カードの紹介

○集中できない時



**明かりや音、不要な掲示物など本人の特性に合わせた環境設定を行う。**

- ・不要な掲示物をはずす
- ・その子にあった明かり加減や音加減などを工夫する

集中すべき時は集中しないといけないということを覚えてもらう。

〈環境設定の事例〉

- ・下駄箱 魔法の言葉 (つま先とーん、おくつをとーん) ⇒整理整頓のできた下駄箱
- ・本棚 本や物に住所をつけて、その住所に入れさせる ⇒整理整頓のできた本棚
- ・道具入れ シールやラベルを貼る ⇒整理整頓のできた整理棚

環境設定は、とても大事。ちゃんと支援すれば、ちゃんと教えれば応えてくれる子どもたち。その子にとって片づけられる環境はどんな環境なのかを見極め支援・指導する。

(5) 自閉症、アスペルガー、ADHDの特性からみる一人が楽な理由

自閉症	アスペルガー	ADHD
<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての音や人の声が同時に聞こえすぎてつらい</li> <li>・人の動きが目まぐるしくてつらい</li> <li>・変化が分かりすぎてつらい</li> <li>・人とどう接していいのかわからない</li> </ul> <p>だから・・・一人が楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え方が分からない</li> <li>・みんなとかみ合わない</li> <li>・ペースが合わない</li> <li>・友だちと遊ぶ意味が分からない</li> <li>・なぜ勉強して誉められないの？と疑問をもつ</li> <li>・なぜ人と関わらなければならないの？と不安になる</li> </ul> <p>だから・・・一人が楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・束縛、干渉は嫌い</li> <li>・一人で自由に動きたい</li> <li>・人と関わっていくのは面倒</li> <li>・いろいろ気になって集中できない</li> <li>・長い話が聞けない</li> <li>・なぜ、わけもなく叱られるかわからない</li> <li>・「寄り道するな、しゃべるな、動くな、暴れるな、調子にのるな」などと周りの人から行動を制限される</li> </ul> <p>だから・・・一人が楽</p>

※精神科ドクターの講演資料より引用

○障がいの特性から何の我慢もしないで好き勝手に過ごしているように見えるが、こんなに悩みや苦しみを抱えて闘っているという一面があると知ってほしい。

○障がいがあるからといってあきらめるのではなく、ほったらかすのでもなく療育や教育を受けて社会に適応する自分を探していかなければならない。生きるために乗り越える壁に立ち向かうのは、障がいがあろうとなかろうとみんながすべて一緒である。

人は誰しも何らかの特性をもち、それが個性として受け入れられ社会に適応しているが、特性のでこぼこが大きすぎることにより、大きな困りごととなり、家庭、学校、職場等でのつまづき度合いによって障がいと見なされる。

障がいの認定基準は、**日常生活に支障をきたすか、きたさないか**である。

学習障がいやアスペルガー症候群、ADHDは成長の過程で気づくことが多いので障がいというより「親の躰が悪い」「私のせい？」と思うことが多くある。周囲の視線が気になり厳しい締め付けをしてしまうことで、かえって癩癩(かんしゃく)や反抗が強くなり悪循環が生じて虐待の原因に繋がってしまう場合もある。親も子も年を重ねるごとに不安が増してくる。

(6) 障がいを有する子をもつ親の悩み

●育児、養育、療育についての困惑	●比較からの焦燥感
●孤立感(子どものよいところをさがす余裕がない)	●親亡き後の不安
●不自由さ(目が離せない)	●いじめ
●就職先がない	●将来の見通し
●自信喪失	●ひきこもり

## (7) 福祉サービス

以前に比べ、障がいへの理解も高まりつつあり、現在、療育や支援のための福祉サービス事業が次のように展開されている。

- ①児童発達支援事業（2才～就学前）
- ②放課後等デイサービス（小学校～高校卒業まで）
- ③生活介護事業（高校卒業後の日中過ごす場所）
- ④就労継続支援A型事業（労働契約を結ぶ）
- ⑤就労継続支援B型事業（訓練等）
- ⑥就労移行支援事業（高校卒業後の進路相談）
- ⑦入所支援（親元を離れて生活）
- ⑧協働生活援助（GH）（自分のことができることが必要）
- ⑨相談支援事業（相談支援員が一人一人に合わせた社会資源を紹介）



このようなサービスを活用し、社会の中で生きていくために親も子も努力している。

○福祉サービスに関わるものとして私たちは常に人格を尊重し、その家族にとって「生きる」ということがどういうことであるか、より良い生活を未来において過ごしていけるよう、今何をすべきか、今必要なことは何かを考え、そしてかつ、「親力を下げない」福祉サービスの展開を行い、家族に寄り添うことを心がけている。基本は家庭。寄り添ってお手伝いをしていきたい。

## 3 最後に

○障がいに関する考え方は人それぞれ。障がいをもっている人を見かけて時には恐怖心を感じたり、一歩二歩下がったりすることもあると思うが、決してほったらかしにされているのではなく、「だめなことはだめなんだよ」と、その子に分かる方法で養育や教育を受け頑張っていることを知ってほしい。

○障がい特性のある人に出会った時は、無理に近寄って行かなくてもよいが、さりげなくすれちがってほしい。障がい特性をほんの少し知って対応していくと同行している親ごさんの励みになる。

障がい特性を知ることにより生まれる優しさが大切

当たり前の人として生きていくために、「みんな一緒なんだ。乗り越える壁はみんなある。」ということを知ってほしい。



**特別な人ではなく、当たり前と共に生きる**